

内容

082004 租税法Ⅱ [Tax Law Ⅱ] □	2
082006 現代倒産・執行法Ⅱ [Civil Enforcement and Bankruptcy Ⅱ] □	4
082008 現代知的財産法Ⅱ [Modern Intellectual Property Ⅱ] □	6
082140 福祉法政策学 [Welfare Law and Policy] □	8
082011 政策過程論 [Political Processes] □	8
082013 行政マネジメントⅠ [Public Administration Ⅰ] □	10
082014 行政マネジメントⅡ [Public Administration Ⅱ] □	11
082015 現代法哲学 [Issues in Law and Philosophy] □	12
082018 公共哲学 [Public Philosophy] □	13
082144 現代ヨーロッパ政治外交論 [Contemporary European Politics and Diplomacy] □	15
082022 現代欧米政治思想 [Contemporary Western Political Thought] □	16
082025 アジア法 [Asian Law] □	18
082149 現代政治分析 [Modern Political Analysis] □	20
082152 福祉社会政策論 [Social Welfare Policy] □	22
082038 現代法政論 [Contemporary Law and Politics] (24-2) □	28
082039 現代法政論 [Contemporary Law and Politics] (24-2) □	28
082042 憲法学特殊講義 [Constitutional Law] (24-2) □	28
082130 行政法学特殊演習 [Seminar in Administrative Law] (外:24-2) □	29
082131 民法学特殊講義 [Civil Law] (24-2) □	30
082051 商法学特殊演習 [Seminar in Commercial Law] (外:24-2) □	31
082053 民事手続法学特殊講義 [Civil Procedure] (24-2) □	32
082055 知的財産法学特殊演習 [Seminar in Intellectual Property] (外:24-2) □	33
082057 知的財産法学特殊演習 [Seminar in Intellectual Property] (24-2) □	34
082059 知的財産法学特殊講義 [Intellectual Property] (24-2) □	35
082060 刑法学特殊演習 [Seminar in Criminal Law] (外:24-2) □	36
082062 刑法学特殊講義 [Criminal Law] (外:24-2) □	37
082064 労働法学特殊演習 [Seminar in Labor and Employment Law] (24-2) □	38
082068 行政学特殊演習 [Seminar in Public Administration] (24-2) □	39
082069 行政学特殊演習 [Seminar in Public Administration] (24-2) □	40
082067 行政学特殊演習 [Seminar in Public Administration] (外:24-2) □	42
082134 政治史学特殊演習 [Seminar in Political History] (24-2) □	44
082135 政治史学特殊講義 [Political History] (24-2) □	45
082136 比較法政論 [Comparative Law and Politics] □	46
082086 比較政治学特殊演習 [Seminar in Comparative Politics] (24-2) □	48

科目名 Course Title	租税法Ⅱ[Tax Law Ⅱ]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	佐藤 修二 [SATO Shuji] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082004
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5100		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 公法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	法人税法、租税判例研究		
授業の目標 Course Objectives	法人税法および所得税法について、課題添削や判例または事例問題の検討により、自らの法的分析の過程と結論とを文章によって明晰に表現しうる能力を涵養する。		
到達目標 Course Goals	条文・判例を整理しつつ、問答を通して理解を深め、課題を解決し、的確に論述できるようになることを目標とする。		
授業計画 Course Schedule	<p>「租税法 1」を履修済みの方を対象に、授業の前半は、教科書『スタンダード法人税法』に沿って、法人税法を学習する。後半は、『ケースブック租税法』に沿って、所得税法・法人税法の判例研究を行う。</p> <p>概略の予定は以下のとおりである(ただし、受講生の要望によっては、後半の判例研究も法人税法のみとするなど、変更することがあり得る)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 法人所得の意義 3. 益金 4. 損金 5. 別段の定め(1)受取配当、役員給与等 6. 別段の定め(2)寄附金、交際費、その他 7. 判例研究 譲渡所得 8. 判例研究 給与所得・退職所得 9. 判例研究 事業所得 10. 判例研究 一時所得・雑所得 11. 判例研究 法人所得の意義・益金 12. 判例研究 益金 13. 判例研究 損金 14. 判例研究 損金 15. 判例研究 所得の概念・課税単位・所得の帰属 		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	毎回、教科書 20 ページ程度、または判例3件程度の予習範囲を指定する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	期末試験による。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			

スタンダード法人税法〔第3版〕／渡辺徹也:弘文堂, 2023 ケースブック租税法〔第6版〕／金子宏ほか:弘文堂, 2023
講義指定図書 Reading List スタンダード法人税法〔第3版〕／渡辺徹也:弘文堂, 2023
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	現代倒産・執行法Ⅱ [Civil Enforcement and Bankruptcy Ⅱ]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	山木戸 勇一郎 [YAMAKIDO Yuichiro] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082006
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5000		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 民事法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	破産法、民事再生法		
授業の目標 Course Objectives	<p>本授業では、破産法(現代倒産・執行法A[現代倒産・執行法Ⅰ])で扱わなかった部分)と民事再生法を扱う。現代倒産・執行法A(現代倒産・執行法Ⅰ)と同一年度に履修することが望ましい。特に、司法試験の選択科目として倒産法を選択する場合は、現代倒産・執行法A(現代倒産・執行法Ⅰ)と同一年度に履修することを強く推奨する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 破産手続及び破産実体法の規律を習得すること 2. 破産法に関する理論的な諸問題について、判例及び学説を踏まえて論じることができるようになること 3. 民事再生法の目的を理解し、再生手続及び再生実体法の規律を習得すること 4. 民事再生法に関する理論的な諸問題について、判例及び学説を踏まえて論じることができるようになること 		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1 相殺権(1) 2 相殺権(2) 3 取戻権・別除権 4 法人の役員の実体の追及・破産手続の進行(1) 5 破産手続の進行(2)・免責および復権 6 再生手続の開始 7 再生手続の機関 8 再生債務者財産・再生債権・一般優先債権・開始後債権・共益債権 9 再生債務者に関する財産関係等 10 再生手続における取戻権・別除権・相殺権・否認権・法人の役員の実体の追及 11 再生手続の進行 12 再生計画(1) 13 再生計画(2) 14 再生手続の終了 15 個人再生・会社更生手続 <p>※授業内容がはやく進行してコマが余った場合は、履修者全員に判例百選掲載の判例について簡単な報告を行ってもらうことを予定している。 ※論述能力の指導: 期末試験の答案について、個別にコメントをしつつ返却する。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>次回の授業内容に関する教科書の記述や判例等をあらかじめ熟読して授業に臨む必要がある。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>期末試験の成績で評価する。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

テキスト・教科書 Textbooks 倒産判例百選〔第6版〕／松下淳一＝菱田雄郷編：有斐閣，2021
講義指定図書 Reading List 破産法・民事再生法〔第5版〕／伊藤眞：有斐閣，2022 倒産処理法入門〔第5版〕／山本和彦：有斐閣，2018
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information ※現代倒産・執行法A(またはI)を履修していることが前提となるため、そのシラバスも併せてご覧ください。

科目名 Course Title	現代知的財産法Ⅱ [Modern Intellectual Property Ⅱ]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中山 一郎 [NAKAYAMA Ichiro] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082008
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5000		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 民事法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	知的財産法、著作権法		
授業の目標 Course Objectives	<p>情報化社会、インターネット時代の到来により、「目に見えない」無体物の重要性が高まっている。知的財産法は、技術や表現等の無体物についての法的ルールであり、具体的には、特許法、著作権法、商標法や不正競争防止法といった諸法の総称であり、知的財産法は扱う対象が多岐にわたるため、複雑な知識を必要とする。</p> <p>また、知的財産法は、民法などの基本的な法律をベースとしつつも、知的財産を対象とするために適宜修正を加えて応用する必要がある。したがって、知的財産法を学ぶことにより、これらの法律の理解も進む側面があり、その意味でも知的財産法の学習は重要といえることができる。</p> <p>本講義では、著作権法に焦点をあてた講義により基本的理解の定着を重視する。その上で、課題や判例の検討、期末試験により、基本的理解を具体的事案に適用する論述能力、特に自らの法的分析の過程と結論を明晰に表現し得る能力を涵養する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>知的財産法 A において特許法を学習したことを前提に(ただし、履修要件ではない)、著作権法を取り上げる。方式主義(審査主義)の特許法とは異なり、無方式主義である著作権法においては、行政法上の論点は絡まないが、他方、多数の支分権や権利制限規定の存在により、学習すべき条文は多い。</p> <p>本講義の到達目標としては、著作権法の基本原理の理解と基礎的知識の習得を主たる目標とするが、あわせて基本的理解を活用して問題・課題を解決し、的確に論述できるようになることを目標とする。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回 著作物総論 第2回 著作物各論(1) 第3回 著作物各論(2) 第4回 著作者(1) 第5回 著作者(2) 第6回 著作者人格権(1) 第7回 著作者人格権(2) 第8回 著作権各論・支分権(1) 第9回 著作権各論・支分権(2) 第10回 著作権各論・支分権(3) 第11回 著作権の制限(1) 第12回 著作権の制限(2) 第13回 著作権の制限(3)／保護期間 第14回 著作権の利用／権利侵害に対する救済(1) 第15回 権利侵害に対する救済(2)</p> <p>※進捗状況により多少の変更があり得る。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>島並良ほか『著作権法入門』(第3版・2021年・有斐閣)及び小泉直樹ほか『著作権判例百選』(第6版・2019年・有斐閣)を教科書として指定する。教科書は、予習・復習のための自習に用いることを前提に、講義はレジュメに基づいて進める。レジュメは事前に配布するので、受講生は、教科書の該当箇所及び取り上げる判例を読み、自習することが求められる。また、レジュメ</p>		

に記した設問に関しては、適宜、受講生に対して質問する。
成績評価の基準と方法 Grading System 期末試験の成績(80%)、レポート(10%)及び発言状況(10%)により評価する。
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks 著作権法入門(第3版)／島並良=上野達弘=横山久芳:有斐閣, 2021 著作権判例百選(第6版)／小泉直樹=田村善之=駒田泰士=上野達弘:有斐閣, 2019
講義指定図書 Reading List 知的財産法(第5版)／田村善之:有斐閣, 2010 ライブ講義知的財産法／田村善之:弘文堂, 2012 プラクティス知的財産法Ⅱ 著作権法／田村善之=高瀬亜富=平澤卓人:信山社, 2020
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information 知的財産法 A を履修していることが望ましい(ただし、知的財産法 A の履修を知的財産法 B の履修要件とするわけではない)。

科目名 Course Title	政策過程論[Political Processes]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	空井 護 [SORAI Mamoru] (大学院公共政策学連携研究部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082011
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5500		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	3 遠隔授業科目《一部対面》		
キーワード Key Words	政治 政府 政策 政治体制 政治政策 現代デモクラシー 古典デモクラシー 政党 利益集団 投票者 選挙 レファレンダム		
授業の目標 Course Objectives	受講者に対し、現代政治一般、およびその重要な一形態である現代民主政治に関する政治学上の主たる概念や理論を、可能なかぎり平易に紹介する。		
到達目標 Course Goals	受講者が、現代政治学の基礎を十分に習得するとともに、それを用いて自ら現代政治・現代民主政治を分析し、評価を下せるようになる。		
授業計画 Course Schedule	<p>本授業は、現代政治の基本構造を明らかにするとともに——そのさいに、本授業のタイトルである「政策過程」とは何かも示す——、私たちにとって最も馴染み深い政治体制である民主主体制のもとでの政治、すなわち民主政治の動態を、その主要なアクターと制度に着目しながら考察するものである。講義形式をとり、具体的な内容・進行は以下を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 イントロダクション(第1回) 1 現代政治とデモクラシー <ul style="list-style-type: none"> 1-1 現代政治の構造(第2・3回) 1-2 政治体制型としてのデモクラシー(第4・5・6回) 1-3 民主主体制の今日的状況(第7回) 2 民主政治論 <ul style="list-style-type: none"> 2-1 現代民主政治の主要アクター <ul style="list-style-type: none"> 2-1-1 政党(第8・9・10回) <ul style="list-style-type: none"> 2-1-1-1 定義と類型 2-1-1-2 布置とシステム 2-1-1-3 議会多数派形成 2-1-2 利益集団(第11・12回) <ul style="list-style-type: none"> 2-1-2-1 定義 2-1-2-2 利益集団政治の動態モデル 2-1-3 投票者(第13・14回) <ul style="list-style-type: none"> 2-1-3-1 選挙制度 2-1-3-2 投票行動 2-2 古典民主政治の制度と特質(第15回) <ul style="list-style-type: none"> 2-2-1 レファレンダム 2-2-2 特質 <p>なお、受講者の理解を容易にするために、講義内容レジュメを單元ごとに配布する。 第1回授業と期末筆記試験のみ対面で行い、残りはすべてリアルタイムの遠隔授業とする。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>復習用の特別な課題は課さないが、期末の筆記試験に備え、授業で取り上げた参考文献を用いた自主的な学習が求められる。政治報道を丹念に追跡することも、本授業にとって必須の準備学習である。</p>		

成績評価の基準と方法 Grading System 受講者における本授業の到達目標の達成度を測るために、期末に筆記試験を行い、その結果を成績評価の材料とするが、おおよその評価基準は以下のとおりである。 可: 授業の内容をひととおり理解している 良: 授業の内容を精確に理解している 優: 授業の内容を精確に理解したうえで、さらに参考文献などを自ら繙き、現代政治学への理解を深めている 秀: 現代政治学についての十分な理解をもとに、現実の政治について独自に分析を加え、その成果を説得的に表現できる
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks なし
講義指定図書 Reading List 開講時に参考文献リストを配布する。
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	行政マネジメント I [Public Administration I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	宇野 二郎 [UNO Jiro] (大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082013
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5500		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information	行政マネジメント I II は両方を履修すること		
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	行政改革, 中央地方関係, 民間化, 再公営化, 予算制度, 政府間財政関係		
授業の目標 Course Objectives	この授業の目標は, 新しい行財政運営の主要な概念やツールを紹介し, 具体的な国内外の行財政改革のケースを批判的に検討することである。主に, 行政構造改革, 民営化や官民連携, 予算制度と政府間財政関係を題材として取り上げる。各セクションにおいては, 概念やツールを紹介し, その後そのトピックに関する国際的な動向と日本における発展を分析する。		
到達目標 Course Goals	1. 国と地方の行財政における改革の主要な特徴とツールについて理解する。 2. 行財政改革のケースに対して, 根拠を示して, 自らの意見を述べるができるようになる。		
授業計画 Course Schedule	主なトピックは次の通りである。 1. 行財政改革の概念とコンテキストとしての行政制度 2. 民営化, 官民連携, 再公営化 3. 中央と地方の関係ー地方分権化と地方制度改革 4. 地方の経営と財政 5. 行財政の課題と展望		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	教科書の指定ページや指定された文献を読み, 課題に取り組む。		
成績評価の基準と方法 Grading System	課題(40%)と最終レポート(60%)に基づき評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	比較行政学入門/ザビーネ・クールマン/ヘルムート・ヴォルマン:成文堂, 2021 公営企業の論理/宇野二郎:勁草書房, 2022		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	行政マネジメントⅡ[Public Administration Ⅱ]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	宇野 二郎 [UNO Jiro] (大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082014
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5500		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information	行政マネジメントⅠⅡは両方を履修すること		
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	行政改革, 中央地方関係, 民間化, 再公営化, 予算制度, 政府間財政関係		
授業の目標 Course Objectives	この授業の目標は, 新しい行財政運営の主要な概念やツールを紹介し, 具体的な国内外の行財政改革のケースを批判的に検討することである。主に, 行政構造改革, 民営化や官民連携, 予算制度と政府間財政関係を題材として取り上げる。各セクションにおいては, 概念やツールを紹介し, その後そのトピックに関する国際的な動向と日本における発展を分析する。		
到達目標 Course Goals	1. 国と地方の行財政における改革の主要な特徴とツールについて理解する。 2. 行財政改革のケースに対して, 根拠を示して, 自らの意見を述べるができるようになる。		
授業計画 Course Schedule	主なトピックは次の通りである。 1. 行財政改革の概念とコンテキストとしての行政制度 2. 民営化, 官民連携, 再公営化 3. 中央と地方の関係ー地方分権化と地方制度改革 4. 地方の経営と財政 5. 行財政の課題と展望		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	教科書の指定ページや指定された文献を読み, 課題に取り組む。		
成績評価の基準と方法 Grading System	課題(40%)と最終レポート(60%)に基づき評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	比較行政学入門/ザビーネ・クールマン/ヘルムート・ヴォルマン:成文堂, 2021 公営企業の論理/宇野二郎:勁草書房, 2022		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	現代法哲学[Issues in Law and Philosophy]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	尾崎 一郎 [OZAKI Ichiro] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082015
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5410		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 基礎法学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 基礎法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	法哲学 比較法 法社会学		
授業の目標 Course Objectives	人類にとって法とは何かについて探究した最新の研究に触れる		
到達目標 Course Goals	授業の目標に同じ		
授業計画 Course Schedule	Fernanda Pirie, The Rule of Laws: A 4000-Year Quest to Order the World, Basic Books, 2021.を精読する。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	576 頁の洋書を通読するので、相応の準備が必要である。		
成績評価の基準と方法 Grading System	平常点と期末レポート		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	公共哲学[Public Philosophy]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	辻 康夫 [TSUJI Yasuo] (大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082018
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5510		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 基礎法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	自由主義、民主主義、公共性、政治参加、熟議、多文化主義、アイデンティティ、社会民主主義、福祉国家、新自由主義		
授業の目標 Course Objectives	<p>本講義は、現代の自由民主体制を前提として、政策を議論する際に必要となる基本的な枠組みについて、理解することをめざす。具体的には、「公共性」「基本的自由とその限界」「民主的手続き」「住民参加」「平等・公平」などについて論じるための基礎的な理解を獲得することを目的とする。政治学を体系的に学んだことのない方を想定し、基礎的な点から解説をおこなう。今日、政策形成・執行の適切な態様をめぐっては、激しい議論が行われている。たとえば一方で政策知識の一層の高度化が求められ、他方で決定過程の開放性、民主的アカウントビリティ、市民の参画が要求される。統治・意志決定の単位や、決定プロセスに参加すべきアクターの種類や範囲についても深刻な争いがある。また、今日の重要な政策課題も多岐にわたる。これらの問題にアプローチするためには、基本的な議論の枠組みを理解することがもっとも効率的であり、本講義はこのように、一方で民主主義の基本原則を理解しながら、他方で、これを現代の問題につなげることを心がけたい。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>到達目標として、以下の段階を設定する。</p> <p>第一段階:「基本的自由とその限界」「民主的手続き」「住民参加」「平等・公平」「多文化主義」などについて理解すること。</p> <p>第二段階:現在の論争の状況を理解し、公共討論の場で行われる議論を評価できるようになること。</p> <p>第三段階:習得した語彙を用いて、公共的なトピックに関して、自らの主張を展開できるようになること。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1部では、リベラル・デモクラシーの歴史および基本原理について概観し、またそのヴィジョンの諸類型を解説する。あわせてこれらの理解に必要な基礎的な概念について解説する。第2部では、20世紀後半以降今日に至る、リベラル・デモクラシーの展開を概観しつつ、基本原理の制度的な具体化の形態と、その変容のプロセスについて理解を深め、あわせて今日の諸問題を取り上げて解説する。具体的には、市民参加、市民社会と中間団体の役割、多文化社会、ナショナリズム、福祉国家、市場と政治の関係、などのトピックをとりあげ、これらのトピック相互の連関に注意しつつ、望ましい政策決定・執行の手続きを論じる際の基本的視角について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 デモクラシーと古典古代の政治 2 中世社会と近代国家 3 自由主義の基本原理 4 保守主義 5 自由民主主義の成立 6 20世紀後半の政治 7 20世紀後半の政治のビジョン 8-9 経済制度をめぐる議論 10 中立性の原理と共同体 11 文化と権力 12 多文化主義 13-14 政治参加のビジョン 		

<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>ELMS からレジュメをプリントアウトしてから、授業に参加してください。レスポンスペーパー(質問・感想)を毎回提出していただきます。授業は対面でおこないますが、やむをえず出席できない方のために、ZOOM でも視聴可能にする予定です。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>レスポンスペーパーと、筆記試験によって行う。</p> <p>① 基礎的な概念の理解に達している者:可 ② ①をふまえて、論争の状況を正確に理解できている者:良 ③ ①・②をふまえて、設問のトピックに関して、自分の言葉で適切な表現ができる者:優 ④ ③のうち、とくにすぐれている者:秀</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>No textbook is assigned. Handouts will be distributed.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>過去に法学部専門科目「政治学」を履修した方には受講を奨めない。 レジュメを、Moodle で配布するので、プリントアウトしてから授業に臨んでください。また、授業の連絡も Moodle をつかうので、チェックしてください。</p>

科目名 Course Title	現代ヨーロッパ政治外交論[Contemporary European Politics and Diplomacy]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中村 督 [NAKAMURA Tadashi] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082144
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	フランス政治史、ヨーロッパ政治史		
授業の目標 Course Objectives	この授業の目標は、今日の至るところで見られるさまざまな次元での「格差」について、歴史的な背景を踏まえながら理解できるようにすることです。そのために昨今、重要だと考えられている文献を講読し、議論することで、格差に関する理解を深めます。		
到達目標 Course Goals	<p>1. 今日の格差を歴史的観点から理解できる。</p> <p>2. 格差の問題を通じてヨーロッパ政治史を考察できる。</p> <p>3. 理論や実証に関する記述を精読できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	この授業は講義形式で行われます。授業計画は以下のとおりです。ただし、受講人数によって形式や内容を多少修正することもあります。		
	<p>1. はじめに</p> <p>2～14. 文献講読とディスカッション</p> <p>15. おわりに</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	報告者は指定された文献・論文を読み、準備することが求められます。		
成績評価の基準と方法 Grading System	リアクション・ペーパー(30%)、レポート(70%)		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	『資本とイデオロギー』(山形浩生・森本正史訳)／トマ・ピケティ:みすず書房, 2023		
講義指定図書 Reading List	『解けていく国家』(中山洋平・尾玉剛士訳)／ミシェル・マルゲラズ、ダニエル・タルタコウスキ:吉田書店, 2023		
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	現代欧米政治思想[Contemporary Western Political Thought]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	権左 武志 [GONZA Takeshi] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082022
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5510		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 基礎法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ヘーゲル、『法の哲学』、家族・市民社会・国家の三分法、国家と市民社会の分離と媒介、近代国家の基本構造、フランス共和政の行政集権化とドイツ帝国の統一不在、「理性的なものは現実的である」、『ドイツ国制論』、『歴史哲学講義』		
授業の目標 Course Objectives	<p>1 現代政治学の代表的古典を購読し、二〇世紀の政治思想が近代ナショナリズムと革命独裁の挑戦を克服してきた思想史の見取り図を理解する。</p> <p>2 現代政治学で使用される主要概念の意義と限界を把握して、現代の政治現象をより良く理解し、将来の指針を立てる上で役立てる。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1 家族—市民社会—国家というヘーゲルの三分法を説明できる。</p> <p>2 国家と市民社会を分離し媒介する彼独自の思考様式とその意義を説明できる。</p> <p>3「理性的なものは現実的だ」という『法の哲学』序文の著名な一節を説明できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>東西冷戦終結とソ連解体から三二年を経て、新たなナショナリズムが再び現れ、民主主義体制から独裁者が誕生する現象が世界各地で見られる。本演習では、フランス共和政の行政集権化とドイツ帝国の統一不在を克服し、近代国家の基本構造を描き出したドイツの哲学者 G・W・F・ヘーゲルの『法の哲学』(1820 年)を購読し、家族・市民社会・国家を区別する著名な三分法、国家と市民社会を分離しつつ媒介する独自の思考様式を学び取る。</p> <p>演習の前半(7 回)では、第 3 部の家族論・市民社会論を購読し、第 1 部・第 2 部で導き出された人格と所有の自由、主体的自由や自己意識の権利をいかに具体化しているか、検討する。演習の後半(7 回)では、第 3 部の国家論及び冒頭の序文を購読し、国家と市民社会の区別や新たな対外国家論、他の思想家の批判を検討する。『ドイツ国制論』のドイツ帝国批判や『歴史哲学講義』のフランス革命観も合わせて検討する。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>1 回目は話の筋道と論理を辿りつつ、2 回目は内容を要約しつつ、2 回丁寧にテキストを精読する。報告者は、担当部分をレジュメに要約し、20 分以内で報告する。他の参加者は、疑問点を書き出し、論点を用意する。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>毎回の出席(最低条件)、テキストの読解力・要約力と討論への貢献(50 点)、期末レポート(50 点)により評価する。就職活動を理由とする欠席は認められない。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	<p>『法の哲学』上／ヘーゲル:岩波文庫, 2021 『法の哲学』下／ヘーゲル:岩波文庫, 2021 受講者は、北大生協書籍部で教科書を事前に購入した上で、初回授業に出席するのが望ましい。</p>		
講義指定図書 Reading List			

『ヘーゲルとその時代』／権左武志:岩波新書, 2013

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

<http://www.juris.hokudai.ac.jp/~gonza/>

備考 Additional Information

科目名 Course Title	アジア法[Asian Law]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	徐 行 [XU XING] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082025
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5420		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 基礎法学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 比較法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	比較法、アジア法、中国法、台湾法、法と政治、司法制度、司法改革、法と開発、法治		
授業の目標 Course Objectives	<p>1 中国法と台湾法について、歴史的、比較法学的にその特徴を把握し、日本法を相対化する視点を獲得する。</p> <p>2 Law in books と Law in action の違いを意識して、法の実効性(特に中国法)の現状に対する理解を深める。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1 中国法・台湾法の法史と公法・私法両分野の重要な法律に関する基礎知識を習得し、日本における中国法・台湾法研究の到達点を把握する。</p> <p>2 中国法・台湾法の法令・裁判例(判例)・文献の調べ方を身につける。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>高見澤磨・鈴木賢編『要説 中国法』(東京大学出版会、2017年)を輪読し、特定の法分野に関する最新の研究も取り上げる。暫定的な検討素材として、以下の2冊を想定しているが、変更する場合もある。</p> <p>石本茂彦・松尾剛行・森脇章編『中国のデジタル戦略と法:中国情報法の現在地とデジタル社会のゆくえ』(弘文堂、2022年) 鈴木賢『台湾同性婚法の誕生:アジア LGBTQ+燈台への歷程』(日本評論社、2022年)</p> <p>また、例年の受講者の問題関心が中国法に集中しているため、台湾法に関する教科書は参考資料として提示し、関心のある受講者が取り上げて良い。</p> <p>第1回 インTRODククション、打ち合わせ 第2～14回 輪読、議論 第15回 まとめ</p> <p>受講者の関心を最優先に取り上げるテーマを決める。 可能な限り同じテーマについて日・中・台の間の比較を可能にする。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>受講者は教科書の該当部分と参考資料(授業で配布)を予め読んでおくこと。 報告者はテキストの要約を作成し、関連資料を調べた上で、日本法と比較して共通点と相違点を析出し、報告に臨むこと。 なお、教科書が比較的古いため、報告者は最新の情報を調べるのにそれなりの時間を費やす必要がある。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>授業への参加度(発言の積極性と内容)50% 課題への取り組み(担当回の報告の内容)50%</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	<p>要説 中国法／高見澤磨・鈴木賢編:東京大学出版会、2017 中国のデジタル戦略と法:中国情報法の現在地とデジタル社会のゆくえ／石本茂彦・松尾剛行・森脇章編:弘文堂、2022</p>		

台湾同性婚法の誕生:アジア LGBTQ+燈台への歷程／鈴木賢:日本評論社, 2022
講義指定図書 Reading List 台湾法入門／蔡秀卿・王泰升編著:法律文化社, 2016
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	現代政治分析[Modern Political Analysis]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	空井 護 [SORAI Mamoru] (大学院公共政策学連携研究部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082149
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	デモクラシーの後退 ポピュリズム 分極化 権力分立 世論		
授業の目標 Course Objectives	受講者を、現代政治に関する精確な理解へと導く。		
到達目標 Course Goals	受講者が、今日の政治ダイナミクスについて、より深く理解するようになる。		
授業計画 Course Schedule	<p>本授業では、近年公刊された「デモクラシーの後退(backsliding)」をテーマとする以下の2冊の書籍を講読する。</p> <p>① Stephan Haggard and Robert Kaufman, Backsliding: Democratic Regress in the Contemporary World (Elements in Political Economy), Cambridge University Press, 2021.</p> <p>② Larry M. Bartels, Democracy Erodes from the Top: Leaders, Citizens, and the Challenge of Populism in Europe, Princeton University Press, 2023.</p> <p>①は一般読者あるいは初学者向けの入門書であり、②は実証的な研究書であるが、初学者にも理解可能な平易な記述が心がけられている良書である。</p> <p>授業の進行は、以下を予定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 説明会・イントロダクション 2 ①-Ch.1 Backsliding: Concept, Mechanisms, Measurement 3 ①-Ch.2 Social and Political Origins of Backsliding: The Role of Polarization 4 ①-Ch.3 Constitutions in the Balance: Parties, Legislatures and the Collapse of the Separation of Powers 5 ①-Ch.4 The Backsliding Process 6 ①-Ch.5 Conclusion 7 ②-Ch.1 A Crisis of Democracy? 8 ②-Ch.2 The Euro-Crisis 9 ②-Ch.3 The Welfare State 10 ②-Ch.4 Immigration 11 ②-Ch.5 Democratic Frustrations 12 ②-Ch.6 The Populist“Wave” 13 ②-Ch.7 Democracy Erodes from the Top 14 ②-Ch.8 Public Opinion and Democratic Politics 15 まとめ <p>授業の具体的な進め方としては、各回につき報告者が指名され、講読回は報告者が担当部分に関して内容要約レジュメを配布し、それに基づいて口頭報告を行ったうえで、テキスト理解の正否につき参加者全員で検討を加える。</p> <p>なお、参加希望者は初回の授業の際に行う説明会に必ず出席されたい。テキストの入手方法についても、そのさいに説明する。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>本授業は演習形式で行われるので、報告者であると否にかかわらず、すべての受講者は毎回それ相応の予習が必要とな</p>		

<p>る。さらに報告者には背景的・補足的な情報の提供も求めるので、周到な準備が必要となる。復習の要・不要は受講者各自の判断に委ねる。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>特段の事情がない限り、すべての授業への出席を成績評価の条件とする。成績は、担当した報告の精確さ(50%)と討議における発言内容の質(50%)をもとに評価するが、おおよその評価基準は以下のとおりである。</p> <p>可:テキストの主張を、ひととおり理解している</p> <p>良:テキストの主張を、その背景にあり基礎をなすさまざまな理論まで踏まえつつ、精確に理解している</p> <p>優:テキストの主張を精確に理解したうえで、その問題点を指摘できる</p> <p>秀:テキストの主張を精確に理解したうえで、その整合性や妥当性を総合的に判断し評価できる</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>Backsliding: Democratic Regress in the Contemporary World (Elements in Political Economy)/Stephan Haggard and Robert Kaufman: Cambridge University Press, 2021</p> <p>Democracy Erodes from the Top: Leaders, Citizens, and the Challenge of Populism in Europe/Larry M. Bartels: Princeton University Press, 2023</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	福祉社会政策論[Social Welfare Policy]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	田中 謙一 [TANAKA Kenichi] (大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082152
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	<p>社会政策、社会保障政策、自立支援、地域包括ケア、地域共生社会、全世代型社会保障、保健、地域保健、福祉、社会福祉、社会手当、地域福祉、子ども・子育て、児童虐待、労働政策、雇用政策、日本型雇用システム、働き方改革、労働市場、職業安定、職業紹介、労働者派遣、人材開発、職業訓練、労働条件、労働基準、労働時間、賃金、最低賃金、労働契約、雇用保護、解雇、雇止め、雇用環境、両立支援、育児休業、介護休業、労働者協同組合、雇用均等、非正規雇用、短時間労働、有期雇用、在宅労働、フリーランス、ハラスメント、労使関係、労働組合、労働委員会、不当労働行為、労働争議、労働紛争、年金、年金制度、年金事業、居住保障、少子高齢社会、労働力、高齢者、障害者、障害児、医療的ケア児、ケアラー、生活困窮者、求職者、外国人、若年者、女性、日本、ドイツ、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
授業の目標 Course Objectives	<p>社会政策の中核は、社会保障・労働政策である。</p> <p>社会保障政策は、国民の生活の安定を図るために重要である。これは、社会保険、公的扶助、社会福祉など、多岐にわたる。労働政策は、労働者の生活保障のほか、労働者の社会的包摂のためにも、重要である。これは、労働市場、労働条件、労使関係など、多岐にわたる。</p> <p>本科目では、社会政策のうち、主として社会保障・労働政策(社会・労働保険及び公的扶助を除く。)について、基本的な考え方並びに現状及び課題を学習する。</p> <p>本科目を履修するに当たっては、「現代社会保障論」と題する科目も履修することが社会保障・労働政策の全体像を学習するために推奨される。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本科目では、到達目標は、次のとおりである。</p> <p>第1段階:我が国における社会保障・労働政策について、基本的な考え方を理解し、かつ、説明することができる。</p> <p>第2段階:我が国における社会保障・労働政策について、現状及び課題を理解し、かつ、説明することができる。</p> <p>第3段階:我が国における社会保障・労働政策について、将来の在り方を考察し、かつ、実現可能な改革を提案することができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>本科目では、対面のほか、オンラインでも、授業に出席することが可能である。</p> <p>授業は、講義と演習とを組み合わせる。</p> <p>講義では、社会政策の各分野における基本的な考え方並びに現状及び課題について、教員又はゲストスピーカーが説明し、かつ、学生による質疑に回答する。</p> <p>演習では、教員が指定するテーマのいずれかについて、数人の学生によって構成される担当の各チームがグループワークを経て資料に基づくプレゼンテーションを実施し、かつ、その他の学生による質疑に回答する。(教員が講評する。)</p> <p>各回の授業の予定は、次のとおりである。(諸事情により、変更が有り得る。)</p> <p>第1回:イントロダクション/講義(社会政策/全世代型社会保障/日本型雇用システム)</p> <p>第2回:講義(子ども・子育て支援)</p> <p>第3回:特別講義(雇用環境・均等)</p>		

<p>第4回:講義(障害者支援) 第5回:特別講義(労働と年金) 第6回:演習(グループワーク①) 第7回:講義(職業安定) 第8回:演習(グループワーク②) 第9回:講義(人材開発) 第10回:演習(グループワーク③) 第11回:講義(労働基準/労使関係) 第12回:演習(グループワーク④) 第13回:特別講義(居住保障の国際比較) 第14回:演習(プレゼンテーション①) 第15回:演習(プレゼンテーション②)</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework グループワークが授業中に完了しない場合には、グループワークを授業外で実施する必要がある。 チームで資料に基づくプレゼンテーション(質疑に対する応答を含む。)を担当したテーマについて、期末に各自でレポートを提出する必要がある。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 授業の3分の2以上に出席する必要がある。 成績評価は、授業(グループワークを含む。)に参加する態度【20%】、資料に基づくプレゼンテーション(質疑に対する応答を含む。)の内容【30%】及びレポートの内容【50%】による。 成績評価に関する基準は、次のとおりである。 可:我が国における社会保障・労働政策について、基本的な考え方を理解し、かつ、説明することができる。 良:我が国における社会保障・労働政策について、現状及び課題を理解し、かつ、説明することができる。 優:我が国における社会保障・労働政策について、将来の在り方を考察し、かつ、実現可能な改革を提案することができる。 秀:上記の能力が特に優れている。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements 教員の内諾を得る必要がある。</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 社会政策 福祉と労働の経済学/駒村 康平 他4名:有斐閣, 2015 入門テキスト 社会保障の基礎 第2版/西村 淳:東洋経済新報社, 2022</p> <p>駒村康平他4名「社会政策 福祉と労働の経済学」については、2024年3月、新版が刊行される予定である。</p>
<p>講義指定図書 Reading List はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ 第20版 / 椋野 美智子 他1名 :有斐閣, 2023 社会保障法 第8版/加藤 智章 他3名:有斐閣, 2023 社会保障法 第3版/菊池 馨実:有斐閣, 2022 障害法 第2版/菊池 馨実 他2名:成文堂, 2021 どうする日本の労働政策/櫻井 純理:ミネルヴァ書房, 2021 日本の労働法政策/濱口 桂一郎:労働政策研究・研修機構, 2018 椋野美智子他1名「はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ」については、2024年3月、第21版が刊行される予定である。講義指定図書以外の図書も、授業で紹介される。</p>
<p>参照ホームページ Websites https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/index.html, https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/index.html, https://www.cao.go.jp/whitepaper/index.html</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory https://researchers.general.hokudai.ac.jp/profile/ja.3abfe252125c94bf520e17560c007669.html https://researchmap.jp/KenichiTanaka70</p>
<p>備考 Additional Information 本科目では、教員は、次に掲げる実務経験に基づき、知見を提供する。 ① 2003年8月～2004年7月に厚生労働省職業安定局で公共職業紹介の実施に関する企画に従事した実務経験 ② 2005年6月～2008年7月に在ドイツ日本国大使館一等書記官としてドイツにおける社会保障政策に関する調査に従事した実務経験 ③ 厚生労働省を始めとする様々な組織で年金局事業企画課長を始めとする管理職にあった実務経験</p>

科目名 Course Title	現代法政論[Contemporary Law and Politics]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	中山 一郎 [NAKAYAMA Ichiro] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082035
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5000		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 民法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information	現代知的財産法 B(LS) 合併		
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	知的財産法、著作権法、商標法		
授業の目標 Course Objectives	<p>情報化社会、インターネット時代の到来により、「目に見えない」無体物の重要性が高まっている。知的財産法は、技術や表現等の無体物についての法的ルールであり、具体的には、特許法、著作権法、商標法や不正競争防止法といった諸法の総称である。知的財産法は扱う対象が多岐にわたり、その一部については特許庁の手続が関わることもあって、複雑な知識を必要とする。</p> <p>また、知的財産法は、民法、民事訴訟法、行政法などの基本的な法律をベースとしつつも、知的財産を対象とするために適宜修正を加えて応用する必要がある。したがって 知的財産法を学ぶことにより、これらの法律の理解も進む側面があり、その意味でも知的財産法の学習は重要といえることができる。</p> <p>本講義では、著作権法及び商標法に焦点をあて、事例問題又は判例の検討により、基本的な理解を具体的な事案に適用する論述能力、特に自らの法的分析の過程と結論を明晰に表現し得る能力を涵養する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>知的財産法 A や知的財産法 B が主として教員からのインプット中心の講義であるのに対して、本講義は、事例問題や裁判例などを題材に、受講者からのアウトプットを中心とする。事例は、主に著作権法から、また、裁判例は、主に商標法から選択する。</p> <p>本講義の到達目標は、知的財産法の基本的理解を定着させるとともに、基本的理解を活用して具体的な問題や裁判例を分析・検討し、法的解決策を、説得的に説明し、文書により論述する能力を涵養することにある。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>具体的な裁判例や事例は、参加者の関心も踏まえて決定する。そのための詳細な説明と議論を初回のイントロダクションで行う。</p> <p>報告者は、割り当てられたテーマについて報告を行い、それに基づいて質疑応答を行う。</p> <p>概ね半数の回で、著作権法を中心とした仮想事例などを取り上げ、残る半数の回で、商標法を中心とした裁判例を取り上げる。</p> <p>ただし、参加者数やその構成により進め方を変更することがあり得る。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>受講生は、知的財産法の基礎的知識を有していることを前提とする。報告者は、割り当てられたテーマについての報告資料を作成し、予め担当教員の確認を受ける。報告者以外の受講者は、当該テーマに関する事例や裁判例などを予習する。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>報告者は、報告内容に関する議論も踏まえて、レポートを提出する必要がある。成績評価は、レポート(80%)及び発言状況(20%)に基づいて行う。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	指定しない。		
講義指定図書 Reading List			

著作権判例百選(第6版)／小泉直樹＝田村善之＝駒田泰士＝上野達弘:有斐閣, 2019
プラクティス知的財産法Ⅱ 著作権法／田村善之＝高瀬亜富＝平澤卓人:信山社, 2020
商標・意匠・不正競争防止法判例百選第2版／茶園成樹＝田村善之＝宮脇正晴＝横山久芳:有斐閣, 2020
知的財産法(第5版)／田村善之:有斐閣, 2010

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

科目名 Course Title	現代法政論[Contemporary Law and Politics]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	中川 寛子 [NAKAGAWA Hiroko] (大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082036
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 社会法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information	LS「経済法B」と合併		
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	経済法、競争法、独占禁止法、判例・審決、不公正な取引方法、私的独占		
授業の目標 Course Objectives	不公正な取引方法、私的独占に関する主要な独禁法事例の検討を通じて、独禁法の解釈適用を学ぶ。		
到達目標 Course Goals	不公正な取引方法、私的独占に関する主要な判決等を読み、法適用例における法解釈論・論理構成を理解すること。当該事件における主要な論点と、それについての判決の立場、学説の評価を理解できるようになること。		
授業計画 Course Schedule	<p>学期の冒頭など早期に、文献収集セミナーを実施し、各自が必要な文献・情報を適切に調べることができる方法を身につける。</p> <p>授業 1～2回に付き 1 事件を取り上げる(不公正な取引方法・私的独占から事例を割り当てる)。複数名で1つの報告グループを作り、報告を担当する(報告担当でない側の学生もグループで質問等の準備をするなど、グループ単位で議論する形式を視野に入れている。できる限り、学生同士で議論しながら共に学べるよう、参加人数を見て工夫したい)。</p> <p>各報告グループは、判決・公取委審決・排除措置命令等の原文のほか、判例百選をはじめとする主要な判例評釈等を読む。①事案の概要、②判決・決定における主要な判示事項、③当該事件の判例法上の位置づけ、④主要な論点についての学説の評価、等をまとめて報告する(担当者内で判決や、賛成意見・反対意見などで分担する)</p> <p>報告担当でない者・グループも、判決原文等に目を通して、質問を用意してくること。この質問に、報告者が答える形で議論を進める。</p> <p>報告者には、他の学生や教員からの質問・指摘を受けて、ブラッシュアップして次週以降に再度報告が求められる場合がある。フィードバックを受けてより広く深く考え、学習をより一層進めることを重視する。</p> <p>全ての学生が、各授業中に必ず一度は発言すること。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>報告者は、授業計画記載の内容を準備しておくこと。</p> <p>報告者以外の参加者も、理解を深め発展させるため、質問を考えるなど議論参加の準備をしておくこと。</p> <p>授業一回につき、一人一回は発言し、積極的に授業に参加してもらいたい。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	平常点(報告内容と議論への貢献)＋期末レポート		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	<p>経済法判例・審決百選(第3版)／川濱昇ほか編著:有斐閣</p> <p>ベーシック経済法(第5版)／川濱昇ほか著:有斐閣, 2020</p> <p>:有斐閣</p>		
講義指定図書 Reading List	<p>注釈独占禁止法／根岸哲編著:有斐閣, 2009</p> <p>独占禁止法／泉水文雄:有斐閣, 2022</p> <p>独占禁止法(第6版)／金井貴嗣ほか編著:弘文堂, 2018</p> <p>報告に際しては、ジュリスト、毎年度の「重要判例解説」(別冊ジュリスト)、NBL、公正取引、等の評釈を参照すること。</p>		

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

演習への応募に際しては、「経済法Ⅰ」及び「経済法Ⅱ」の履修を強く勧める。

科目名 Course Title	憲法学特殊講義[Constitutional Law]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	齊藤 正彰 [SAITO Masaaki] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082042
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6100		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 公法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	憲法		
授業の目標 Course Objectives	憲法学の研究を進めるについて重要な近年の論文を精読し、議論状況とその水準を知り、研究に必要な知識と学力を錬成することを目標とする。		
到達目標 Course Goals	憲法学の研究動向とその成果を理解することとともに、憲法学の論文をより深く読解・検討する能力の習得を目標とする。		
授業計画 Course Schedule	憲法学の近年の論文を精読する。 取り上げる論文および進行方法は、履修者の人数や要望等も勘案して、開講時に調整・決定する。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	報告担当の有無にかかわらず、履修者全員が、取り上げる論文について検討しておくことが求められる。		
成績評価の基準と方法 Grading System	報告および討論への参加状況を総合的に勘案して評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List	現代立憲主義と人権の意義／佐藤幸治:有斐閣, 2023 憲法訴訟の実務と学説／渡辺康行編:日本評論社, 2024 基本権論／新正幸:日本評論社, 2023 平等原則と差別禁止法理／植木淳:成文堂, 2024 環境憲法学の基礎／藤井康博:日本評論社, 2023 国際人権法と憲法／近藤敦:明石書店, 2023		
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	行政法学特殊演習[Seminar in Administrative Law]		
講義題目 Subtitle	(外:24-2)□		
責任教員 Instructor	岸本 太樹 [KISHIMOTO Taiki] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082130
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	日本及びドイツ行政法学の思考様式の特徴		
授業の目標 Course Objectives	行政法学に関する文献(特にドイツ語文献)の講読を通じて、自己の研究テーマ(執筆予定の論文テーマ)に直接関係しない諸々の論点等についても、幅広く基本的な知識を獲得することを目標とする。本講義の受講を通じて、ドイツ語文献の読解能力の向上を図るとともに、日本及びドイツの行政法学の思考様式の共通性を理解する。		
到達目標 Course Goals	我が国の行政法学に多大な影響を及ぼしてきたドイツの行政法学に焦点を当て、有力な比較法研究の対象国の一つに位置づけられるドイツの行政法制度、判例及び学説に関する知識を獲得し、その理解を深化させることを到達目標とする。本講義への参加を通じて、ドイツ語文献を精確に訳出し、これを理解したうえで他者にわかりやすく伝えることができる水準に到達すること、またその過程で、ドイツ行政法学の根底にある思考様式を把握することを到達目標とする。また本講義の受講では、同じ大陸法系に位置づけられるフランス行政法の思考様式と日本及びドイツ行政法の思考様式を比較し、両者の共通性又は相違性を理解することも到達目標となる。		
授業計画 Course Schedule	本講義において講読する文献は、受講生の人数及び研究対象を考慮したうえで最終的に決定するが、前半は、行政法学に関するドイツ語文献(学術論文)を講読することが中心となる。講読にあたり、適宜、関連する先行日本語文献や関連するドイツ連邦行政裁判所等の裁判例を講読する。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	受講生全員が毎回指定された箇所を読み込み、各自ノートに訳出し、内容をまとめることを要求する。受講者全員が、質疑応答に積極的に参加するよう、密度の高い準備を求める。		
成績評価の基準と方法 Grading System	事前準備学習の状況と授業時における質疑応答の姿勢を総合評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	講読する学術図書は、初回の講義で決定する。		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	民法学特殊講義[Civil Law]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	牧 佐智代 [MAKI Sachiyo] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082131
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	法と経済学、契約法、不法行為法、消費者法		
授業の目標 Course Objectives	<p>「法と経済学」ないし「法の経済分析」と呼ばれる方法論が、法学分野において領域横断的な「共通言語」となりつつある。本授業では、法と経済学発祥の地たる米国で公開された、入門または中級クラスの法と経済学のテキストを輪読することを通じて、経済学的視点を持つことの重要性を認識することを目指す。</p>		
到達目標 Course Goals	①英語の文献講読に慣れること、②法と経済学の基本的知識の習得、③アメリカ法についての知識の習得、を目標とする。		
授業計画 Course Schedule	<p>アメリカで公開されている「法と経済学」のテキストを輪読する。</p> <p>なお、法と経済学ないし法の経済分析は、民法分野に限らず刑法、経済法、知的財産法等、様々な法学分野に及ぶが、本授業では、民法分野に限ってテキストを講読する。</p> <p>各人が担当部分の逐語訳レジュメを作成し、当日も逐語訳をその場でしてもらう。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>毎回、各人が自身の割当部分の逐語訳を作成してこなければならず、また自身の担当部分以外も全文読んでこなければならない。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	報告内容および議論への参加の態度を総合的に考慮して評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	講読する文献・資料は原則として教員で用意する予定である。		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	商法学特殊演習[Seminar in Commercial Law]		
講義題目 Subtitle	(外:24-2)□		
責任教員 Instructor	三宅 新 [MIYAKE Hajime] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082051
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6000		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 民事法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	保険契約法、ドイツ語		
授業の目標 Course Objectives	ドイツ保険契約法の文献・判例を読む。		
到達目標 Course Goals	ドイツ保険契約法の文献・判例を読むことによって、比較法研究の仕方を学ぶ。		
授業計画 Course Schedule	<p>この授業は、1 学期とは対照的に、担当教員が求める内容である。</p> <p>担当教員が現在研究しているドイツ保険契約法の研究を示すことで、学生には比較法研究とはどのようなものであり、どのようなことをすべきかということ学んでもらう。詳細は 1 回目の授業で伝える。</p> <p>本来、研究大学院の授業とはこのようにあるべきと思っている。</p> <p>なお、フラクトゥール(分からなければ調べることを)を読むことがある。読み方は授業で扱わないので、各自事前に理解しておくこと。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	指定した文献・判例を読むことは当然必須である。		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>感染症等の真にやむを得ない事情がある場合を除き、欠席は認めない。定期的な通院での欠席は、別の日時に行ける以上認めない。</p> <p>全 15 回に出席した者を、日頃からの積極性・理解力を基に判断する。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	<p>現在、大学院生で保険契約法での論文を書こうとしている者はおそらくいないはずである。</p> <p>しかし、あくまでこの授業の目的は、文献を読むことを通じて比較法研究の方法を学んでもらうことにあるから、専攻は特に問わない(もちろん、あまりに無関係な専攻だと学習効率上問題があるので、それは指導教員と相談して決めること)。</p> <p>ただし、ドイツ語をある程度自分で読めなければ話にならないので、それは履修の前提である。</p>		

科目名 Course Title	民事手続法学特殊講義[Civil Procedure]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	横路 俊一 [YOKOMICHI Shunichi] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082053
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6000		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 民事法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	民事手続法		
授業の目標 Course Objectives	日本の民事訴訟法の判例について理解を深めること		
到達目標 Course Goals	日本の民事訴訟法判例について、その意義を説明できるようになること。		
授業計画 Course Schedule	日本の民事訴訟法について一定の理解を有していることを前提に、訴えの利益、弁論主義、既判力などの重要概念に関する判例について、受講生が、その意義や関連する学説、レポートにまとめ、45分程度の報告を日本語で行う。取り扱う内容については、授業の初回に受講生と協議のうえ決定する。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	各人に割り当てられた課題について、指定された回の授業までに準備してくる必要がある。		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業における参加の態度や報告の内容によって評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業を履修する際は、あらかじめ担当者(横路)と相談することを推奨する。 ・授業計画の立案上、初回の授業に出席した者(又は、初回の授業の前日までに本授業の履修を希望する旨を担当者に連絡した者)以外の者の履修は認めないので、この点には十分に注意すること。 ・日本の民事訴訟法理論について、一定の理解を有していることを前提として講義を行うので、その点にも留意すること。 		

科目名 Course Title	知的財産法学特殊演習[Seminar in Intellectual Property]		
講義題目 Subtitle	(外:24-2)□		
責任教員 Instructor	中山 一郎 [NAKAYAMA Ichiro] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082055
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6000		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 民事法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	知的財産法, 英語		
授業の目標 Course Objectives	知的財産法に関する英語文献を読むことにより, 知的財産法の理論を学ぶ。		
到達目標 Course Goals	米国の知的財産法に関する基礎知識を習得するとともに, 英語の法律書の読解能力を向上させる。		
授業計画 Course Schedule	毎回, 担当者が英語文献の要約を作成して報告し, 質疑応答を行う。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	参加者はすべて(担当者にかかわらず), 毎回, 指定された英語文献について内容を把握してくること。		
成績評価の基準と方法 Grading System	担当回の報告状況と講義への貢献により評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	FOUNDATIONS OF INTELLECTUAL PROPERTY/ROBERT P. MERGES AND JANE C. GINGSBURG:Foundaiton Press, 2004		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	受講に際しては, 知的財産法に関する基礎知識があることが前提となる。		

科目名 Course Title	知的財産法学特殊演習[Seminar in Intellectual Property]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	中山 一郎 [NAKAYAMA Ichiro] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082057
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6000		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 民事法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	知的財産法		
授業の目標 Course Objectives	知的財産法に関する邦語文献を読むことにより、知的財産法の理論を学ぶ。		
到達目標 Course Goals	日本の知的財産法に関する先端的な理論を学ぶとともに、自己の論文の示唆を得る。		
授業計画 Course Schedule	知的財産法に関して指定した邦語文献を講読し、議論する。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	参加者はすべて、毎回、指定された文献について読解すること		
成績評価の基準と方法 Grading System	講義への貢献(質疑応答等)やコメントペーパーを考慮した総合評価を行う。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	知的財産法(第5版)／田村善之:有斐閣, 2010 ライブ講義知的財産法／田村善之:弘文堂, 2012		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	知的財産法学特殊講義[Intellectual Property]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	ハズハ ブラニスラヴ [Branislav HAZUCHA] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082059
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6001		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 民事法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	知的財産法、商標法、不正競争防止法、欧州連合、米国		
授業の目標 Course Objectives	商標の法的保護に関する国際条約及び比較法の基本的知識の習得		
到達目標 Course Goals	国際法、EU 法及び EU 主要国の国内法における商標保護制度を概観し、商標の法的保護についての基本的理解を得る。特に EU レベルならびに EU 主要国の国内での理論的展開と実務の運用状況に焦点を当てて検討を行う。重要な論点について日本、アメリカでの議論をも比較しながら理解を深める。		
授業計画 Course Schedule	本講義は以下のように構成されている。 1. 商標保護制度の歴史と発展を概観する 2. 商標の保護に対する法的アプローチを考察する 3. 商標保護制度—登録商標及び非登録商標の保護について— 4. その他の保護制度—不正競争防止法— 本講義は英語で行われる。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	毎週担当教員が事前に配布するテキスト 5～10 ページの予習が必要。		
成績評価の基準と方法 Grading System	1. 講義中の発言(45%) 2. 期末試験成績(55%)		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	Dutfield and Suthersanen on Global Intellectual Property Law / Graham Dutfield, Uma Suthersanen: Edward Elgar Pub, 2020 Reading Materials (selection of articles) will be distributed later.		
講義指定図書 Reading List	European Trade Mark Law / Annette Kur, Martin Senftleben: Oxford University Press, 2017 Principles of Trademark Law (Concise Hornbook Series) / Roger E. Schechter, John R. Thomas, 2020		
参照ホームページ Websites	http://lex.juris.hokudai.ac.jp/~bhazucha/		
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	刑法学特殊演習[Seminar in Criminal Law]		
講義題目 Subtitle	(外:24-2)□		
責任教員 Instructor	城下 裕二 [SHIROSHITA Yuji] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082060
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 刑事法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	イギリス刑法 刑法総論 比較刑法学		
授業の目標 Course Objectives	イギリス刑事実体法の基本原則および基礎理論を理解する。		
到達目標 Course Goals	刑法総論の重要問題についてイギリスおよびわが国の理論状況を比較検討する。		
授業計画 Course Schedule	<p>〈イギリス刑事実体法の基礎的考察〉</p> <p>これまで、イギリスの刑事実体法については、わが国では因果関係論・未遂犯論などが断片的に紹介されてきたにすぎない。たしかに、ドイツ刑法学の強い影響下にあるわが国の刑法学にとって、イギリスでの議論状況は参考にしにくい面があったことも否定しがたい。しかし最近では、他の諸外国の影響を受けた刑法「理論」の構築がイギリスでも進展しつつある。本講義では、代表的なテキストの講読を中心としつつ、イギリス刑事実体法の全体像を鳥瞰し、さらに個別的な問題についてもわが国での議論と比較しながら検討することにした。また、最近では、英米刑法とドイツ刑法の比較研究も進展してきている。こうした視点についても、随時参照することにする。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	講義時に指示する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	平常点(60%)および期末レポート(40%)を総合的に考慮する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	<p>Simester and Sullivan's criminal law: theory and doctrine, 8th ed./A.P.Simester,J.R.Spencer,F.Stark,G.R.Sullivan and G.J.Virgo:Hart Publishing, 2022</p> <p>Fundamentals of Criminal Law/A.P.Simester:Oxford University Press, 2021</p>		
講義指定図書 Reading List	<p>Crimes, Harms, and Wrongs/A.P.Simester and Andreas von Hirsch:Hart Publishing, 2011</p> <p>The Oxford Handbook of Philosophy of Criminal Law/John Deigh and David Dolinko (ed.):Oxford University Press, 2011</p> <p>Ashworth's Principles of Criminal Law (9th ed.)/Jeremy Horder:Oxford University Press, 2016</p> <p>The Limits of Criminal Law/Matthew Dyson and Benjamin Vogel (eds.):Intersentia, 2018</p> <p>The Oxford Handbook of Criminal Law/Markus D. Dubber and Tatjana Hoernle(ed.):Oxford University Press, 2014</p> <p>Criminal Law : A Comparative Approach/Markus D.Dubber and Tatjana Hoernle:Oxford University Press, 2014</p>		
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	刑法学特殊講義[Criminal Law]		
講義題目 Subtitle	(外:24-2)□		
責任教員 Instructor	松尾 誠紀 [MATSUO Motonori] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082062
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 刑事法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	刑法		
授業の目標 Course Objectives	<p>近時、未遂犯論に関する議論が活性化している。 それを受けて、今年度の本授業では、未遂犯論の中でも、特に中止犯論を扱う。わが国の中止犯論だけでなく、ドイツの中止犯論をも学ぶことで、中止犯論の到達点を理解することを目標とする。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本授業では、わが国だけでなくドイツの理論状況をも比較して学ぶことで、中止犯論に対する深められた理解を獲得することを到達目標とする。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>演習形式で行う。 各回の授業は以下の内容で行う。 ①わが国の中止犯論に関する分析。 ②ドイツの中止犯論に関する文献の講読。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>授業で予定された内容に関する予習が必要となる。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>①出席状況(遅刻の有無も考慮する) ②報告内容 ③発言の積極性と発言内容</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	労働法学特殊演習[Seminar in Labor and Employment Law]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	池田 悠 [IKEDA Hisashi] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082064
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 社会法		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives	労働法の理解を前提に、研究者の視点から日本法及び外国法を比較研究する。		
到達目標 Course Goals	労働法研究者としての素養を身につける。		
授業計画 Course Schedule	日本の労働法と外国の労働法を比較対照しながら研究する。 比較対象国は、アメリカ・ドイツ・フランスを予定している。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	指定された判例や文献等には、予め精読しておく必要がある。 このほか、開講時に指示する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	各受講者に割り当てられた講義時の報告をもとに評価する。ただし、受講者の数によって、試験やレポートを課す可能性がある。 なお、労働法の理解が不十分な受講者には、随時、日本の労働法の理解を問う試験を課し、一定以上のスコアに達しない限り単位を付与しない。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	この授業は、既に日本の労働法を十分に理解している学生のみを対象に開講されるので注意すること。		

科目名 Course Title	行政学特殊演習[Seminar in Public Administration]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	宇野 二郎 [UNO Jiro] (大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082068
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6500		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	地方公営企業制度, 公共サービス提供, 公営公益事業, 民営化, 都市経営, 地域活性化, 人口減少社会		
授業の目標 Course Objectives	この授業では地方公営企業制度を取り上げる。地方公営企業制度は、住民生活に必要な不可欠な公益的なサービス(水道, 下水道, 電気, 交通, 医療, 等)を自治体が提供するための財政, 組織, 人事に関する地方公営企業法を中心に形成されるが、同時に、各自治体における公共サービス提供の実践の積み重ねの中で生まれ、発展してきた。この授業では、地方公営企業やそれに類似する仕組みによる公共サービス提供に関する文献や実証研究を読むことを通じて、地方公営企業制度の本質を検討する。		
到達目標 Course Goals	地方公営企業制度を理解する。 地域社会における地方公営企業の役割を考察できるようになる。		
授業計画 Course Schedule	授業で取り扱うテーマは主に以下の通りである。リーディングリストは初回の授業中に示す。 1. 公営公益事業の創設と都市の経営 2. 公営公益事業の創設と農村地域の発展 3. 安定成長期の地方公営企業の転換と民営化論議 4. 人口減少社会における地方公営企業		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	各授業前に、初回の授業の中で示すリーディングリストの中から指示された文献(書籍 1 冊, または数章)を読み、コメントを作成する。割り当てられた学生は課題文献の要約及び論点を準備する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	コメントペーパー(30%), 報告の内容(60%), 授業中のディスカッションへの貢献(10%)に基づき評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	, 2022 リーディングリストは二回目以降の授業で示します。		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	行政学特殊演習[Seminar in Public Administration]		
講義題目 Subtitle	(24-2)[]		
責任教員 Instructor	村上 裕一 [MURAKAMI Yuichi] (大学院法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082069
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6500		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	官僚制、行政制度、行政組織、行政活動、公共政策		
授業の目標 Course Objectives	・最近の行政学の研究論文を読み、それに関して意見交換をした上で、独自の行政学研究に取り組む。		
到達目標 Course Goals	(1) 最近の行政学研究の動向を学習するとともに、検討すべき論点を抽出し、ディスカッションをすることができる。 (2) 先行研究の内容や方法を参考にしつつ、独自の行政学の調査・研究に取り組むことができる。 (3) 自分の調査・研究の成果を論文にまとめ、表現することができる。		
授業計画 Course Schedule	<p>(1) 本演習では、まず、行政学研究の最新動向を把握するのに適した論文を輪読する。採り上げる論文の候補として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 'Public Administration Review' (http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1540-6210) ・ 'Public Administration' (http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1467-9299) ・ 'Policy Sciences' (http://link.springer.com/journal/11077) ・ 'Journal of Policy Analysis and Management' (http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/pam.2015.34.issue-1/issuetoc) ・ 'Public Management Review' (http://www.tandfonline.com/toc/rpxm20/current#.VI6aCmcfqUk) ・ 'Regulation & Governance' (http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1748-5991) <p>等があり、受講者とも相談しつつ決定する。演習では、前半で担当者が論文の要旨説明と論点提示をし、後半でそれに関して受講者全員でディスカッションをする。</p> <p>(2) その上で、受講者が、各論文の内容を参考にしつつ独自の行政学研究に取り組む。研究の内容は、担当した論文の内容に関する発展的考察でも、関連する研究論文の論評でも、関係する行政現象の事例研究でも、基本的には受講者の自由な発想に任せたい。担当教員からは、テーマの設定や関連する文献の提案、研究の方向付け等、可能な限りのサポートをしたい。</p> <p>(3) 最終的には各自の研究の成果を 10,000 字程度の論文にまとめ、期限内に提出することを求める。本演習を通して、行政学の知見のみならず、自ら課題を発見してディスカッションし、自ら研究しその成果を表現する能力を会得できよう。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	・まずは①自分の担当箇所の要旨説明と論点提示、②毎回のディスカッションへの参加、及び、③独自の行政学研究と論文執筆を求めるので、それに付随する予習・復習が必要となる。		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>・演習への貢献度(30%)・参加(40%)と論文の出来(30%)を基本としつつ、平常点を加味して評価する。</p> <p>・おおよその成績評価基準は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習で取り上げた政治(学)・行政(学)の現状を理解している…[C]-[C+] 2. 1に加え、政治(学)・行政(学)の近年の動向についても理解し、説明できる…[B]-[B] 3. 2に加え、政治(学)・行政(学)を的確に分析・評価し、自説を添えて説明できる…[B+]-[A-] 		

4.3 のレベルが特に優れている…[A]-[A+]

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

テキスト・教科書 Textbooks

参考文献は演習の中で適宜紹介する。References and a reading list will be provided during class.

講義指定図書 Reading List

参考文献は演習の中で適宜紹介する。References and a reading list will be provided during class.

参照ホームページ Websites

<http://lex.juris.hokudai.ac.jp/~yuichim/education2024.html>

研究室のホームページ Websites of Laboratory

<http://lex.juris.hokudai.ac.jp/~yuichim/>

備考 Additional Information

・受講を希望される方は、開講日の遅くとも 1 週間前までに、大学院での研究テーマと本授業で取り上げてみたい文献を担当教員 ([yuichim \(at\) juris.hokudai.ac.jp](mailto:yuichim@juris.hokudai.ac.jp)) までご連絡ください。

科目名 Course Title	行政学特殊演習[Seminar in Public Administration]		
講義題目 Subtitle	(外:24-2)□		
責任教員 Instructor	山崎 幹根 [YAMAZAKI Mikine] (大学院公共政策学連携研究部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082067
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6500		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 現代法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	政策形成、公共政策、中央地方関係、政府間関係、地方分権改革、自治、二元代表制、市民参加、民主主義		
授業の目標 Course Objectives	日英の政府間関係の特徴を、国際比較の観点から分析し、統治システムに関する知見を獲得することを目標とする。本演習では、地方自治の理論、制度の特徴と変遷、公共政策の実態を踏まえ、政治学・行政学の概念を用いながら検討してゆく。		
到達目標 Course Goals	日英のサブナショナルな政府と政治の特徴を、理論的かつ歴史的な文脈の観点から理解する。さらに、公共政策の形成過程にあらわれる特徴を個別の政策分野の事例に即して理解することを目標とする。		
授業計画 Course Schedule	1, guidance 2, Japanese Prefectures and Policymaking, ch1 3, Japanese Prefectures and Policymaking, ch2 4, Japanese Prefectures and Policymaking, ch3 5, Japanese Prefectures and Policymaking, ch4 6, Japanese Prefectures and Policymaking, ch5 7, Japanese Prefectures and Policymaking, ch6 8, Japanese Prefectures and Policymaking, ch7 9, Politics and policy making in the UK, ch1 10, Politics and policy making in the UK, ch2 11, Politics and policy making in the UK, ch3 12, Politics and policy making in the UK, ch4 13, Politics and policy making in the UK, ch5 14, Politics and policy making in the UK, ch6 15, conclusion		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	1、予習として、履修者は毎回の授業の前に、予め指定された論文や参考文献を読み、意見や疑問点をまとめ、積極的な態度で臨むことが求められる。履修者には毎回の授業に際して、コメント票の提出が義務付けられる。 2、復習として、講義指定図書をはじめとした参考文献を読むことや、現代日本の地方位置の動向をWEBサイトを通じて把握することが期待される。		
成績評価の基準と方法 Grading System	毎回提出するコメント票と、履修者が担当するは発表内容によって評価する。評価基準は下記の通り 日英の政府間関係の概要を、理論、制度、公共政策の観点から理解している—可 日英の政府間関係の概要を踏まえ、その特徴を国際比較の観点から理解している—良 日英の政府間関係の特徴を、理論、制度、政策過程から理解し、考察できる—優 優の対象者の中で、卓越した能力を有する者—秀		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

<p>テキスト・教科書 Textbooks Japanese Prefectures and Policymaking／Steeven R. Reed:University of Pittsburgh Press, 1986 Politics and Policy Making in the UK／Paul Cairney and Sean Kippin:Bristol University Press, 2024</p>
<p>講義指定図書 Reading List 論文の書き方マニュアル／花井等・若松篤:有斐閣, 2014 行政・地方自治／秋月謙吾:東京大学出版会, 2001 日本の地方政府／曾我謙悟:中央公論新社, 2019</p>
<p>参照ホームページ Websites 地方制度調査会 http://www.soumu.go.jp/singi/singi.html, 内閣府地方分権改革推進室 http://www.cao.go.jp/bunken-suishin/, 自治体国際化協会 http://www.clair.or.jp/</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	政治史学特殊演習[Seminar in Political History]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	小浜 祥子 [KOHAMA Shoko] (大学院公共政策学連携研究部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082134
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	国際政治		
授業の目標 Course Objectives	国際政治学の基礎文献を批判的に読解し、国際政治学の発展と現状について理解を深めた上で、残された課題を見つける。		
到達目標 Course Goals	1) 国際政治学の基礎文献を読む 2) 文献を批判的に読む力を養う 3) 国際政治学の発展と現状を理解する 4) 残された研究課題を見つける		
授業計画 Course Schedule	毎回の授業では、特定のテーマに関する主要文献を複数読み合わせ、内容の確認と討論を行う。課題文献の詳細は初回の授業までに Moodle にアップロードするので、確認して予習を進めること。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	毎回論文5本程度		
成績評価の基準と方法 Grading System	討論への参加 70% 期末試験 (Take home exam) 30%		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	政治史学特殊講義[Political History]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	岩谷 將 [IWATANI Nobu] (大学院公共政策学連携研究部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082135
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	中国政治史、中国社会史		
授業の目標 Course Objectives	国史館蔵「事略稿本」(1933年～1935年)の講読を通じて、20世紀前半における中国国民革命について理解を深める。		
到達目標 Course Goals	まず、中国国民革命の政治史的、社会史的背景を理解する。そのうえで、民国政治史研究の視点や関心を把握し、中国革命や民国政治史に対する自分なりの見方を養い議論する。		
授業計画 Course Schedule	以下の文献を週に2カ月分(約400ページ)読み進める。 国史館蔵「事略稿本」 その他、開始時に改めて指定する。 進め方としては、毎回報告担当者と討論者を指定し、討論を行う。 報告者はレジュメを作成し、討論者は論点を用意すること。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	事前に課題文献の内容を理解し、論点や自分なりの疑問点などを整理しておく必要がある。		
成績評価の基準と方法 Grading System	討論への参加、報告の内容によって決定する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	比較法政論[Comparative Law and Politics]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	馬場 香織 [BABA Kaori] (大学院公共政策学連携研究部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082081
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 5520		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 比較法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information	比較政治学合併		
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives	権威主義体制下の選挙に関する最新の研究動向、民主主義体制下の選挙との共通点と相違点、選挙の実態などについて学ぶ。		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・権威主義体制の選挙の実態を理解する ・権威主義体制下で選挙が行われる要因について、主要な議論を理解する ・以上を踏まえ、権威主義体制下の選挙を分析するために視角を身につける 		
授業計画 Course Schedule	<p>冷戦終結後、複数政党が参加する競争的選挙を行う権威主義体制(=独裁)が急増し、権威主義体制全体の半数以上を占めるようになった。今日、ロシアの選挙も米国の選挙も同じように報道されているが、これらの国々の選挙にはどのような共通点と相違点があるのだろうか。</p> <p>選挙を行う独裁が大半を占めるようになった今日、独裁者が選挙を行う理由やその効果を理解する意義はますます大きくなっている。本授業の前半では、以下の文献を中心に輪読を行い、このテーマについての最新の知見や研究動向を学ぶ。</p> <p>東島雅昌『民主主義を装う権威主義:世界化する選挙独裁とその論理』千倉書房(2023)</p> <p>後半(11月半ば～)はいくつかのグループに分かれて、事例研究を行い、発表とそれについての討論を行う。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	参加者は毎週の授業に臨むにあたって、事前にテキストの該当箇所を読んでコメントシートを準備することが必須となる。読む分量は、毎回 20～40 ページ程度。コメントシートに書くべきことについては、第 1 回授業で説明する。書籍は各自で入手すること。授業期間の後半(11月半ば以降を予定)は、各グループの事例研究発表を行う。競争的選挙を実施する(あるいは、かつて実施していた)国や地域を選択し、その実態や効果などについて研究して、順番に授業で発表する。その準備のために、関連する文献やデータの収集、発表資料の準備など、グループでの共同作業が必要となる。		
成績評価の基準と方法 Grading System	「授業への積極的参加」テキストの分析、疑問点の提示、事例についての考察など、討論に積極的に参加する態度:30% 「毎回のコメントシート」毎回のコメントシートの提出/内容が単なる感想文ではなく、分析的でユニークなものであるか:20% 「事例研究発表」適切なデータや資料を用いて、説得力のある分析が行えているか:50%		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	民主主義を装う権威主義:世界化する選挙独裁とその論理/東島雅昌:千倉書房, 2023		

講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	比較政治学特殊演習[Seminar in Comparative Politics]		
講義題目 Subtitle	(24-2)□		
責任教員 Instructor	馬場 香織 [BABA Kaori] (大学院公共政策学連携研究部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2024	時間割番号 Course Number	082086
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	LAW 6520		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	LAW Law, Graduate School of Law		
開講部局	法学部, 法学研究科(法学政治学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 政治学		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 比較法政論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ラテンアメリカ政治、選挙、政党、宗教		
授業の目標 Course Objectives	ラテンアメリカの複数国を対象とする比較研究を通じて、比較政治の方法を学び、またテーマである宗教と選挙政治に関する知見を深める。		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・比較政治のさまざまなアプローチと手法を学ぶ ・現代ラテンアメリカ政治の基礎を学ぶ 		
授業計画 Course Schedule	<p>本授業では、以下の文献を輪読する。</p> <p>Taylor C.Boas 2023. Evangelicals and Electoral Politics in Latin America. Cambridge University Press.</p> <p>歴史的にカトリック人口が多いラテンアメリカにおいて、近年プロテスタント(とくにペンテコステ派などの福音主義)の人口が増えており、政治においても存在感を増している。しかし、その政治的動員力には国によって差異がみられる。本書では、比較歴史分析やサーベイ実験など、さまざまな手法を用いて各国間の差異の要因を分析する。</p> <p>授業には、毎回該当の箇所を全員が読んでから臨み、比較政治の分析手法と本テーマに関する最新の知見を学ぶ。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>各回、15~25 ページ程度の英語文献を読むことが必須となる。加えて、レジュメ担当者は要約レジュメを作成し、授業の冒頭で発表を行う。</p> <p>文献のコピーはPDFを用意する予定だが、各自で入手することが望ましい。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業への参加度とコメントシートの内容で評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	Evangelicals and Electoral Politics in Latin America/Taylor C.Boas:Cambridge University Press, 2023		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			